神奈川県立多摩高等学校　第６７回卒業式

校長式辞

神奈川県立多摩高等学校第67回卒業式を挙行するにあたり、多数のご来賓の皆さまにご臨席を賜り、高い席からではありますが、ご挨拶申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。担任の呼名に凛として立つ我が子の姿をご覧になり、感慨もひとしおかと存じます。心よりお喜び申し上げます。これまで、本校に多大なご支援・ご協力を賜りましたことを、全職員になり代わりまして、厚くお礼申し上げます。

また、日ごろ、本校の教育活動にご理解とご支援を賜っております、同窓会、ＰＴＡ、地域ほか、関係の皆様にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

67期生の皆さん、卒業おめでとう。

私たちが生きる世界は様々な課題に満ちています。グローバル化に伴う経済や政治、環境などの国家間の問題。そして今、ＡＩの急速な進化とそれに伴う人間生活の変容。今までの知識や仕組みでは簡単に解決できそうにない複雑な問題に満ちています。そうした中で求められる人材は、グローバルな視点を持って、リーダーシップをとって課題を解決していくグローバルリーダーです。私は、多摩高校で学んだ皆さんはそのグローバルリーダーとしての素質を備えていると確信しています。皆さんには、複雑で処理や解決の困難な事柄を避けないで取り組む人材になって欲しいと思います。

『後漢書』という中国の歴史書の一節に「盤根錯節に遇はざれば、何を以て利器を別たんや」という文章があります。虞詡という人物が他の人間がしり込みをするような困難な仕事を命じられた時にまず「志は易きを求めず、事は難きを避けざるは、臣の職なり。」（自分は気持ちの上では簡単なことは求めず、実際の行動の上では難しいことも避けない）と言い、その上で、「盤根錯節に遇はざれば、何を以て利器を別たんや」と述べたと伝えられています。盤根とは、ぐるぐる巻きになった木の根、錯節とは絡まりあっている木の節、そういう切ることが困難な木を切るときにはじめて、利器　使用する道具の真価を判断することができる。人間も、困難な事態を迎えてはじめてその人間の実力・価値を知ることができる、その人間が有能な人材かそうでないかを区別することができるという意味です。虞詡という人物は、「自分は困難を避けない、そして困難にあった時こそ人間の能力がはっきりする、能力を示すことができる。」と考え、実際にその困難な仕事にあたり、やり遂げたと伝えられています。

皆さんは、多摩高校の３年間で勉学や行事、部活動の中で様々な困難な問題に直面しては問題に向き合い、考え、仲間を作り、協力し解決してきました。その経験で能力と精神力が培われていることを自覚してください。自分はリーダーシップをとって解決にむけて力を発揮できる人材であると自信を持ち、「盤根錯節に遇はざれば、何を以て利器を別たんや」の精神を持って、困難な事態に直面しても、避けることなくその解決にあたり、その能力を示してください。

多摩高校の校訓「自重自恃」は「自らを鍛え自らの能力を信じて誇りを持ち、自分と他者を尊重し、自己と社会の発展に努める」ことをその精神としています。多摩高校を卒業した後も、卒業生として「自重自恃」の精神を胸に、自らの可能性を信じ困難に立ち向かってください。そして、世界に新たな価値をもたらし、未来をリードしていく存在になることを心から期待しています。

皆さんのこれからの活躍を祈念して卒業式の言葉といたします。卒業おめでとうございます。

令和７年３月６日　　神奈川県立多摩高等学校長　　野田　麻由美